北海道経済

中小企業 子育て支援に力

出産育児祝い 第3子に200万円

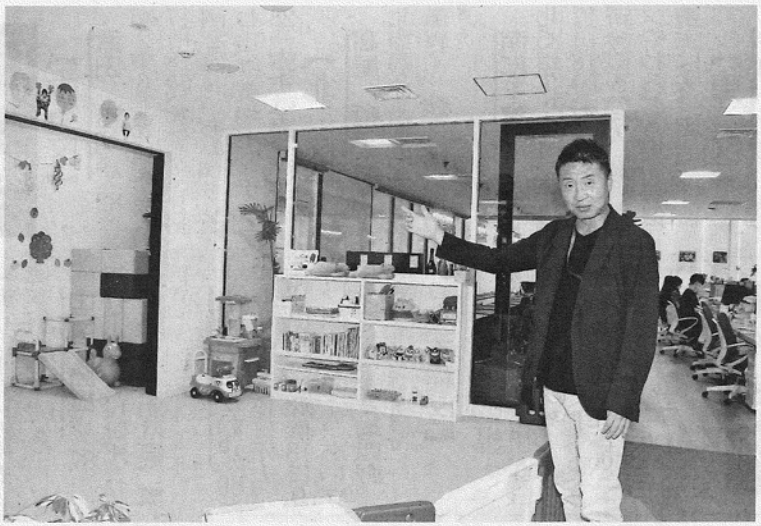
福利厚生充実 就職で重視

道内で子育て支援を充実させる中小企業が増えている。就職先を選ぶ際に「福利厚生」の手厚さを重視する人も多く、企業側も安心して働いてもらえるよう採用時にアピールすることで、社員の定着につなげたい考えだ。（五十川由夏）

建設業や製造業を展開する「ヤブシタホールディングス」（札幌市中央区）は、2024年1月以降に子供が生まれた社員を対象に出産育児祝い金制度を新設した。第1子、第2子は各50万円、第3子には200万円を支給する。7月に第3子を出産予定のグループ会社「ヤブシタ製作所」（江別市）の三原結花さん（33）は「物価高なので金銭面で安心できるのはありがたい。仕事を続けるモチベーションにもつながる」と喜ぶ。

ヤブシタホールディングスは20年4月から、オフィス内に託児スペースを開設し、託児希望の社員がいる期間は保育士を雇い入れて子供を無料で預かる取り組みも行っている。

森忠裕社長（54）は「子育て中でプレッシャーを抱えながら働いている社員を見て、会社として寄り添わなければならないと思った。国の施策を待たず、中小企業でも（支援が）できることを示したい」と語る。





（上）オフィス内の託児スペースについて説明する森社長（札幌市中央区で）
（下）「ヤブシタホールディングス」の託児スペースの様子（札幌市中央区で）＝同社提供

